

2005年 9月20日

ニューヨーク日本人教育審議会理事の皆様

ニューヨーク日本人学校
校長 登喜 龍一郎

機関決定延期と再度の保護者説明会の開催のお願い

いつも本校の教育活動に深いご理解と温かいご支援を賜り感謝申し上げます。

9月に入ってからの3回の保護者説明会には、理事の方々の今回の決定に対する強い思いを垣間見る思いがいたしました。

しかし、一方で、3月末の説明会以降、理事の方々が保護者説得に一生懸命に当たったものの、熱心なあまり、保護者の目には高圧的・一方的に映ったこともあり、逆に月日が経つにつれ保護者の反対意見が強まったように思えてなりません。

こんな中、理事の皆様方は、9月23日（金）の理事会で説明後、早晚、機関決定をなさるおつもりでしょうか。理事の皆様は、保護者と審議会がわだかまりを持った状態であることは当然ご理解いただいていると思います。わだかまりを決定的に残すような強行採決をいたしますと、大人たちの諍いの犠牲になって、多くの子どもたちの心が傷つき、大人を心から信頼できない子どもたちになるのではないかと校長として危惧しております。そのような非教育的な事態だけは是非避けてほしい。これが、学校側の強い願いです。

そこで、理事の方々に校長としてお願いしたいことがあります。それは、機関決定を延期して、下記に述べる趣旨で保護者説明会を再度開催していただき、保護者との溝を少しでも埋める最後の努力をしていただきたいということです。

【今回の保護者説明会の趣旨】

- 1 経営責任者としての理事が、ここ数年間審議会の赤字を防げなかった責任を、保護者を前に お詫びする。
- 2 将来へのビジョンを示す。
 - ① 売却リースバック後から次の移転先決定までのプロセスを示す。
 - ② 次の移転先3年目までの財政予想を立て、説明する。
 - ③ 共用に伴う子ども同士のトラブルについて、どんなことになろうと、保護者に責任を被すことなく、審議会が一切の費用を含め責任を取ると明確に伝える。
- 3 PTA案に対してコメントする。

このような保護者説明会を開催していただけないでしょうか。

私は教職経験を通して、子どもたちの喧嘩をよく見てきました。喧嘩をした子どもたちを仲直りさせるためには、まず、謝るということが出発点です。謝ることによって、わだかまりが解消します。今回の問題も根底は同じです。

機関決定を延期し、上記の保護者説明会を開催していただけるよう、是非ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、このような機関決定延期と保護者説明会の再開催ができないのであれば、校長として現状の強行採決に強く反対の意思表示をいたします。